

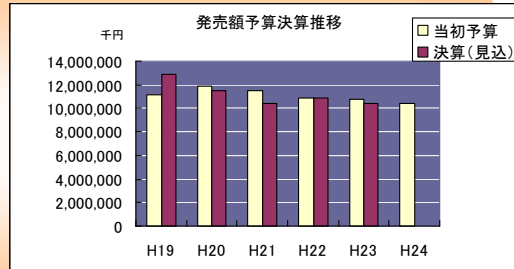
# 平成24年度 ばんえい十勝 開催計画

- 1 「帯広市ばんえい競馬運営ビジョン」に示す様々な取り組みを着実に実行し、馬券発売額の向上と更なるコスト削減を図り、収支均衡以上の運営を目指します。
- 2 地域が誇る貴重な資源として、全道、全国、海外への発信力を高め、様々な観光資源と連携を図る中で観光客の誘致に務め、地域経済への貢献を目指します。
- 3 開拓の歴史を引継ぐ馬文化を継承し、広く紹介するとともに、馬産振興、生産振興の観点から「ばんえい競馬」を通じた振興奨励を図ります。

## ばんえい競馬 開催計画概要 ～ 帯広市開催6年目

- 1 開催日程 26開催 153日  
(H23 : 26開催 154日)  
毎週土・日・月開催を基本
- 2 ナイター開催 75日間  
(H23 : 51日間)
- 3 発売額 10,365百万円

本場	1,708百万円
直営場外	2,609
電話投票	4,468
他広域	1,580



## 収支改善に向けた取り組み

- 3連勝式馬券の通年発売に伴う業務協力費増
- 売上げの確保
  - ・ナイター開催日の増 ⇒ 電話投票発売額の増
  - ・ホッカイドウ競馬場外でのばんえい発売日数増
  - ・南関東競馬でのばんえい競馬発売
  - ・ばんえい非開催日に南関東、北海道競馬 + 東海地域を中心とした馬券発売
- 7重勝式勝馬投票券の年度内導入検討
- 徹底したコスト削減
  - ・投票システム保守費の削減 常駐保守員の減
  - ・帯広競馬場警備体制の見直し
  - ・厩舎居住者の使用する水道光熱費、ゴミ処理の一部受益者負担化
  - ・帯広競馬場、直営場外発売所の発売コスト見直し(人員削減、清掃業務見直し等)
- 地方競馬全国協会、全国公営競馬主催者協議会の各種補助、助成事業の活用
  - ・馬場整備事業(砂入替 ゴール前砂障害の設置)
  - ・共同TZSインフラ整備関係(投票系端末機一部入替など)
  - ・共同TZS移行円滑化支援 他
- 馬主及び競走馬の減少に歯止め
  - ・新馬導入推進(2歳新馬競走への付加賞金支給10,750千円)
  - ・報償費の変動制見直し
  - ・生産者対策(生産者賞の支給14,000千円 一般会計予算)
- 勝馬投票券購入者の増加
  - ・首都圏を中心とした競馬愛好者への情報提供
  - ・観光客や初心者向けの情報提供充実
  - ・バックヤードツアー等の参加者に勝馬投票券を購入していただく仕組みづくり
- 観光資源としての活用
  - ・ばんえい競馬を組み込んだツアー造成
  - ・競馬関係者の協力を得て、競馬非開催日に「模擬レース」を実施
  - ・外国人観光客向けのパンフレット作成
  - ・北海道内を中心とした各地イベントでのばんえい競馬のPR
  - ・管内市町村、団体の協力をいただきながら競馬場を活用したイベント実施

## 平成23年度との主な違い

### 包括的競馬事務委託の見直し

- ・これまでは競馬公正確保に関わる業務のみ市直接負担としてきた
- ・競馬事務委託範囲を細分化し、固定的経費は市直接負担
- ・業務方法の見直し等による経費節減

再委託によるコスト削減

### 報償費変動制→固定制

- ・賞金諸手当の水準が全国最低
- ・競走馬減少でレースが組めない恐れ
- ・発売額により設定額の見直しを行う

馬資源(競走馬)の確保

## 継続開催に向けた課題

### ～支出削減～

- 法制度の見直し(競馬関連法)
  - ・払戻率の弾力化 現行の約75%から5%程度の範囲で弾力的に決定できる仕組み
  - 改正法案が審議中
  - ・地全協交付金の見直しなど 他主催者と共同で要望(現在協議検中)
- 電話投票の発売業務委託料率の低減
  - ・地方競馬主催者全体でオッズパーク及び楽天競馬と協議中

### ～収入増～

- 帯広競馬場及び直営場外での中央競馬発売に向けた協議
- 中央競馬電話投票システム(I-PAT)でのばんえい競馬発売に向けた協議
- ミニ場外発売所開設に向けた取り組み

発売額の推移に応じて、競馬事務委託会社と協力しながら経費見直しを随時行う。

